

Title	日本北陸地域中国人留学生の社会資本構築に関する研究 —個人属性と異文化適応を中心に—
Author(s)	王, 宇航
Citation	
Issue Date	2025-03
Type	Thesis or Dissertation
Text version	author
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/19716">http://hdl.handle.net/10119/19716</a>
Rights	
Description	Supervisor: KIM, Eunyong, 先端科学技術研究科, 修士 (知識科学)

# 日本北陸地域中国人留学生の社会資本構築に関する研究 — 個人属性と異文化適応を中心に —

2310016 WANG YUHAN

本稿では、日本北陸地域に在住する中国人留学生が社会資本をどのように構築し、異文化適応とどのように関係しているのかを明らかにすることを目的とする。社会資本は、人間関係や社会ネットワークを通じて得られる資源の蓄積であり、留学生にとっては学業や生活の質の向上、地域社会への統合において重要な役割を果たす。本研究では、社会資本の形成に影響を及ぼす要因を、個人属性と異文化適応の観点から分析し、そのプロセスを詳細に検討する。

まず、個人属性の違いが社会資本に与える影響を明らかにするため、性格、年齢、日本語能力、来日前の社会経験などの要素を取り上げた。また、異文化適応に関しては、心理的適応（ストレスや抑うつ程度）と社会文化適応（日本の生活習慣や社会規範への順応度）の二つの側面を考察し、それぞれが社会資本の強度にどのように関連するかを統計的に検証した。さらに、異文化コミュニケーションにおける困難点を整理し、適応を阻害する要因と促進する要因を特定することを目指した。

データ収集には、アンケート調査（有効回答数 104 件）と半構造化インタビュー（30 名）を用いた。その結果、社会資本の構築には個人属性や異文化適応度が一定の影響を及ぼしていることが明らかとなった。特に、外向的な性格の留学生ほど、日本人および中国人とのネットワークを広げやすい傾向があった。一方で、心理的適応の側面では、抑うつ度が高い場合、社会資本の形成が難しくなることが確認された。社会文化適応度については、日本の社会習慣に適応している留学生ほど日本人との関係が構築されやすい傾向が見られたが、統計的には近似有意に留まり、さらなる検討が必要である。

半構造化インタビューの分析では、社会資本の構築を阻害する要因として、①日本語能力の不足、②社会的支援の欠如、③文化的な価値観の相違、④地理的制約による交流機会の制限が挙げられた。特に、言語の壁が大きな障害となっており、日本語能力が不十分な留学生は、日本人との交流の機会が限られやすいことが指摘された。また、社会的支援（留学生向けのサポート体制や交流イベント）の不足も、ネットワークの形成を妨げる一因となっていた。

一方で、社会資本の形成を促進する要因として、①積極的な行動、②多文化的なイベントや交流活動への参加、③明確な目標を持った活動への関与、④家族や既存の友人関係による心理的安定が重要であることが示唆された。特に、日本社会に積極的に関わり、日本人との接触機会を増やすことが、社会資本の形成を促すうえで効果的であることが分かった。大学のサークル活動や地域イベント、アルバイトやボランティアを通じた交流が、日本人との関係を構築する重要な手段となりうる。

以上の結果を踏まえ、留学生が日本でより良い社会資本を築くためには、言語能力の向上と積極的な社会参加が不可欠であると考えられる。特に、日常会話レベルの日本語力を高めることで、日本人との関係が円滑になり、社会資本の構築が容易になることが示された。また、日本側の受け入れ体制の充実も求められる。大学や地域社会において、留学生

支援を強化し、交流の場を増やすことが、多文化共生の促進につながる。具体的には、大学内の国際交流プログラムの拡充、留学生と日本人学生の共同プロジェクトの実施、地域コミュニティとの連携強化などが有効な施策として挙げられる。

本研究は、日本の地方都市における留学生の社会資本形成に関する実証的研究として、新たな知見を提供するとともに、多文化共生社会の構築に向けた政策的示唆を与えるものである。今後の課題として、調査対象を拡大し、より多様な地域や異なる国籍の留学生を対象とした比較研究を行うことで、社会資本形成のメカニズムをより深く理解することが期待される。